

日本医師会

赤ひげ大賞

地域で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」(主催・日本医師会、産経新聞社)が創設から7年目を迎えた。第1回から受賞者の選考に携わる東京理科大学特任副学長の向井千秋氏と、昨年度から特別協賛する太陽生命保険社長の田中勝英氏に、この賞の意義や地域医療の果たすべき役割について語ってもらった。
(司会・産経編集センター 道丸摩耶)

地域を元気にする医療

東京理科大学特任副学長 向井千秋氏 × 太陽生命保険社長 田中勝英氏

むかい・ちあき 慶応大医学部卒。アジア初の女性飛行士として平成6年、10年に2度の宇宙飛行。27年に東京理科大学副学長、28年4月から現職。

たなか・かつひで 慶応大経済学部卒。昭和52年、太陽生命保険入社。お客様サービス本部長、副社長営業本部長などを経て、平成23年から現職。



「赤ひげ大賞は今年、7回目を迎えます。向井氏は第1回から選考に携わってくださっていて、太陽生命は昨年度から特別協賛としてこの賞を支えてくださっています。これまで振り返っていかがですか」
向井氏 そうですね。あつという間ですね。人を助けたくて臨床医を目指したのに途中で宇宙に行ってしまう私です。地域の方々に寄り添って長年にわたって強い意志のもとに診療を続けていらつしやる赤ひげ先生たちには本当に頭が下がります。
田中氏 受賞された先生の多くは地道に地域で住民のためにがんばっておられます。日本の医療は、こういう先生に支えられているんだな、と昨年の表彰式では大変感動いたしました。
向井氏 この賞の名前の元となった山本周五郎の時代小説『赤ひげ診療譚』は江戸時代の物語です。現代には現代の赤ひげ先生がいるだろう。それはどんな先生かと、実は選考の過程ですと悩み続けていました。始めの3年くらいは、現代の赤ひげ像は小説に書かれたものと違つはすと考へていた部分がありました。でも、6年間でようやく決まってきた。病気で悩む人だけでなくその人を介護する周りの人にも寄り添い、コミュニティを元気にしようという全国の赤ひげ先生は、山本周五郎の描いた赤ひげ像と変わらないんじゃないか

かと思うようになりました。時代が変わっても赤ひげの原点は変わらないんじゃないか、最近ではそう考えています。
田中氏 その通りだと思います。むしろ時代とともに変わったのは、日本人が長生きになったということでしょう。私たちのお客さまの約7割は女性ですが、女性の方が長生きですから、夫の介護をしてその後はご自身が介護を受ける女性が多いと思います。私たちは介護や認知症に備える保険商品を販売していますが、赤ひげ先生たちは高齢者が元気に長生きできるように応援していただいている。非常に心強いです。
— それぞれのご専門から、現代の医療に望むことはありますか
向井氏 宇宙飛行士になって、医学が役立つと感じたのは予防医学の分野です。宇宙飛行士は、宇宙に行くことと地上の寝たきりの人の倍以上に筋肉が弱くなる。それを予防する薬やリハビリの手法を地上に還元することが、寝たきりの人を少なくしたり、骨粗鬆症の人に良い運動療法を開発したりすることにつながる。宇宙医学とは究極の予防医学なんです。楽しく生産性を持って生きるために予防してこういう考え方は地上でも生かすことができるんです。

IT駆使 人の心も見守って

「スーパードクター」や「神の手」といわれるような医師ばかりでなく、地域住民の生命と健康を守るため、日々、地道に診療を続ける医師たちの活動を知っていただきたいの思いで創設した「日本医師会 赤ひげ大賞」も、今年度で7回目を迎えることとなりました。
本紙でも紹介していますが、受賞者は皆、現代の赤ひげと呼ばれるにふさわしい活躍をされている方々ばかりであり、毎回頭が下がる思いをいたしています。超高齢社会を迎え、認知症や在宅医療などへの対応が迫られる中、各地域の医師たちの役割は今後、ますます高まるものと思われまふ。
日本医師会では、医師の診療能力を維持・向上させるための取り組みを進めるとともに、皆さんの身近にいる医師を一人でも多く本賞で顕彰し、各地域の魅力的な医療やまちづくりを紹介することによって、各地の医療環境の整備につなげていきたいと考えています。
ぜひ、ご理解・ご協力の程お願い申し上げます。

と、住民たちに対応していかないと危惧しています。
田中氏 医療技術の進歩はめまぐるしいですが、一方で地域を守っていくお医者さんもないといけません。私たちは70歳以上のお客さまに年1回、連絡を取って健康の確認などをさせていたでいるのですが、なるべく直接、足を運ぶことにしているんです。対面のサービスとITを使うから時代の課題という気がしています。
向井氏 最先端にいても、常に原点に戻ることが大事です。いろいろなことをやっているうちに原点を忘れてしまつことはよくありますから、赤

医師を顕彰 医療環境の整備につなげる

日本医師会会長 横倉義武氏
「スーパードクター」や「神の手」といわれるような医師ばかりでなく、地域住民の生命と健康を守るため、日々、地道に診療を続ける医師たちの活動を知っていただきたいの思いで創設した「日本医師会 赤ひげ大賞」も、今年度で7回目を迎えることとなりました。
本紙でも紹介していますが、受賞者は皆、現代の赤ひげと呼ばれるにふさわしい活躍をされている方々ばかりであり、毎回頭が下がる思いをいたしています。超高齢社会を迎え、認知症や在宅医療などへの対応が迫られる中、各地域の医師たちの役割は今後、ますます高まるものと思われまふ。
日本医師会では、医師の診療能力を維持・向上させるための取り組みを進めるとともに、皆さんの身近にいる医師を一人でも多く本賞で顕彰し、各地域の魅力的な医療やまちづくりを紹介することによって、各地の医療環境の整備につなげていきたいと考えています。
ぜひ、ご理解・ご協力の程お願い申し上げます。



組みを作っているか、早期治療のためにどんなことをしているかをもっと多くの人に知ってもらえればと思います。
向井氏 現代の赤ひげ先生には、コミュニティ自体を元気にしていくような役割があるんじゃないでしょうか。ITなり映像なりを組み合わせて、自分の足や車で回れる範囲以上をカバーする。やはり赤ひげ先生はずいぶんいいですね。私、ときどき審査員ですみませんっていう気持ちです(笑)。



日本医師会 赤ひげ大賞 日本医師会と産経新聞社が共同で、地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績をたたえて広く国民に伝えるとともに、次代の日本を支える地域医療の大切さをアピールする事業として平成24年に創設された。全国の都道府県医師会から推薦された、病を診るだけではなく地域に根付き、その地域のかかりつけ医として生命の誕生からみとりまでさまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師から、選考委員会で毎年5人を選定し表彰している。
江戸時代の小石川養生所を舞台に庶民の人生模様と「赤ひげ」と呼ばれる所長と青年医師の心の交流を描いた山本周五郎氏の『赤ひげ診療譚』にあやかって名付けられた。

おかげさまで大好評!

ひまわり認知症治療保険

認知症治療保険

太陽生命

十ヶツケ隊
におまかせください。
お支払い手続きその場でサポート!
お支払い手続きの専門知識がある職員がシニアのお客様のもとへ直接訪問し、お手続きのサポートをいたします。